那須烏山市立境中学校
閉校記念

那須烏山市立境中学校統合準備委員会・同窓会

目次

1 あいさつ
（市長、教育長、同窓会長、境地区代表自治会長、PTA 会長、校長）
5 境中学校の沿革の大要
6 校章・校旗・立志の塔
7 校歌
8 逍遥歌・応援歌
9 歴代校長・同窓会長・同窓会役員・PTA 会長
13 境中学校生徒数の推移
14 思い出

境中学校の閉校に寄せて

那須烏山市教育委員会教育長　池澤　　進

昭和22年４月創設の境中学校が、59年に及ぶ歴史の幕を閉じようとしています。

その歴史は、戦後の学校教育法制定を受け境村立として始まり、校舎・体育館の改築、さらに昭和・平成の合併を経て、現在の那須烏山市立に至るまで、まさに境地区のシンボルでありました。

当校は、那珂川県立自然公園に抱かれた自然豊かな地に在ります。学校東方には山ツツジの古木が春の花、秋の紅葉と彩りをなす“花立峠”。那珂川を隔ててはるか日光連山を背景に烏山市街地を一望し、周辺は那珂川に沿って散在する見事な農林景観。四季折々の景観に富んだ山紫水明の地を誇ります。

地域には心温かく、人情味豊かな人々が住まい、教育と地域づくりに情熱を注いで来られました。他地域に先駆けた中学校後援会の結成、県教育委員会によるＰＴＡ模範校表彰など、地域を揚げての生徒育成は、今日の教育の規範であります。

今日までに卒業された五千余名は、明るく・聡く・たくましく、多方面で活躍されていますが、こうした誇るべき自然・地域性によって育まれた賜物と言えましょう。

近年、少子高齢化や国際化、情報化の進展、環境問題等、社会情勢は日々変化し、本市も多大な影響を受けております。特に、少子高齢化は想像を上回る速度で、生徒の急減は学校における教育活動を阻害するに至りました。

那須烏山市では、こうした憂うべき事態に対応するため烏山町で立案された学校統合を継承する運びであり、その先駆者となる当校は平成18年度より新生「烏山中学校」へ統合されます。

時代の趨勢とは申せ、思い入れ深い当校の閉校は境地区の人々にとって苦渋の選択でありました。しかし、境地区では持ち前の教育にかける情熱・叡智を発揮され、統合を選択されました。その思慮深い決断には、心より敬意を表したいと存じます。

やむなく閉校となる当校に惜別の念は消えませんが、その歴史・伝統は同窓生・地域の方々の心の中に受け継がれ、また烏山中学校で醸成されることと確信いたします。

結びに、今日までの間、当校を支えて下さった関係者の皆様に深く感謝申し上げ、また、今後の烏山中学校へのご支援をお願いするとともに、さらなる境地区の発展を祈念申し上げ、寄稿とさせて頂きます。

閉校に寄せて

那須烏山市長　大谷　範雄

私は、那須烏山市初代市長といたしまして平成17年11月7日に就任させていただきました。この歴史的な大転換期に立ち会うことが出来る幸運に感謝してやみません。

旧烏山町立境中学校閉校にあたりましてご挨拶を申し上げます。

昭和22年境村立境中学校として産声を上げて以来、教育指標"明るく、聡く、たくましく"の基、閉校まで約60年間の歴史に終止符を打ち、新たな学校組織の中で、新制那須烏山市と共に新たな道を歩むこととなりました。開校以来あまたの先人達により構築されました歴史と伝統は永久に語り継がれていくこととなりましょう。

幾多の変遷を遂げられ、多くの優秀なる諸先輩そして人材を育成されてきた当校にありまして、同窓会員の皆様の気持ちを察する時、万感、胸にせまるものがございます。その伝統を築き上げられた中には、30周年記念事業や昭和62年には栄えあるPTA活動文部大臣表彰、地域ぐるみ研究学校の指定及び平成8年には学校環境緑化コンクール県最優良校の表彰、更には平成13年全国学校体育研究優良校の表彰を受けるなど数々の栄誉と郷土教育振興に寄与されてきたのであります。改めまして、諸先輩、関係各位に感謝と敬意を表する次第でございます。

「自然」と「やさしさ」と「知恵」を育む、暮らしやすいまち。そして、活力と安らぎの交流文化都市「那須烏山市」が、10月1日、めでたく誕生しました。市民の皆様と共に、この喜びを分かち合いたいと思います。

さて、私の政治信条のひとつに、「天のときは地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」という孟子の言葉があります。新市の歩むべき道は、決して平坦ではありませんが、未来に向けて活力のある那須烏山市を築くために、この言葉を肝に銘じ、住民主役のまちづくりを進めなければなりません。

具体的には、次の四つのテーマに基づく市政を推進します。

まずは、行政のスリム化、自主財源比率のアップ、税収の未納策、職員の意識改革など行政改革を断行した「自立したまちづくり」です。

次に、「地の利を活かしたまちづくり」。農業や特産品育成を推進し、産官学の連携推進、定住・交流人口の増加対策、企業誘致、道路・交通網の整備促進を図ります。

三つ目は、「教育・文化の振興と心安らぐまちづくり」です。教育に力を注ぎ、豊かな自然環境を保全し、歴史的・文化的遺産を継承・支援します。さらに、安全で安心の地域社会を築きます。

最後に、「人の和が活きるまちづくり」。民主導の「まちづくり委員会」等の設置や、住民交流センターの整備、雇用支援、福祉・保健・医療の充実と機能整備、中心市街地の活性化など、市民が活躍できる環境整備を進めます。

私は、これらを具現化するため、住民の目線に立った市政を公正・公平に、情熱を持って推進し、那須烏山市の振興発展に全力を尽くす所存です。

新たな次代を担う子供達に取りまして、今、正に学校統合再編は子供達の目線でもって考える時であります。境中学校の統合再編計画を英断をもって適切にご判断されましたPTA・関係者各位・自治会の皆様方の、子供達の未来の幸福を祈念した素晴らしいご決断に改めまして敬意を表します。

「キラリと光るまちづくり」を進めるため更なる市民の皆様のご指導・ご意見を賜りたいと存じます。

新生「那須烏山市」の限りなき発展と境地区のご隆盛を心からご祈願致しまして閉校にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

境中学校の思い出

那須烏山市立境中学校PTA 会長
（統合準備委員会委員長）
矢野　博史

私は、24年前境中学校を卒業し、その後境中学校に行く機会がありませんでしたが、卒業して四、五年後、同級生と境中学校で野球の練習をすることになり、その時初めて新しい校舎になったのを知り、とても驚きました。

また、当時は、花立峠から中学校までの道が砂利道で通学するのが大変だったのが思い出に残っております。

その後、自分の子どもが境中学校に入学して、今度は生徒では無く保護者の立場になり、以前とは違った目線で境中学校を見ることになりました。

今年度の境中の生徒数は91名で年々減少しています。部活動では四つの部がありますが部によっては部員の人数も少なく、活動が困難な部もあります。それでも一生懸命に練習に励んでいる生徒たちの姿を見ると、感心させられました。

59年間の歴史と伝統がある境中学校も今年度で閉校になります。卒業生としてまたは保護者としても複雑な気持ですが、私自身も私の子どもたちも境中学校には大変お世話になり心から感謝しています。

閉校の年にPTA会長という大役をさせて頂き、何かと大変な時期もありましたが、私の人生の中でよき経験になったと思います。

最後になりますが、生徒たちの今後の活躍を期待するとともに陰に陽に境中を支えてくださった地域の皆様に感謝申し上げ、PTAを代表してのあいさつといたします。

境中職員を代表して

那須烏山市立境中学校長
郡司　恵一

別離と喪失には寂寥が伴います。

本校は昭和22年４月１日、境村立中学校として創立されました。そして、60周年を目前に控えた平成18年３月31日、その歴史に幕を閉じます。

この間、４月より烏山中学校に通学する現１・２年生を含め、5,253名の生徒が在籍しました。本校に勤務した教職員は、196名。5,459名を数える生徒・教職員が期間の多少はあれ、この学び舎で将来の夢を語り、友情を育んできたことになります。

また、延べ13,068名のPTA会員や数多くの地域結社の方々が子供たちの将来を教育に託し、多大なる困難を克服しながら施設設備の拡充や内容の充実に献身的な努力を続けてきました。その一例を「我らは･･･多大なる苦心と努力をはらいます。しかし乍らこれを実施せんとすれば一村をして殆ど経済的破滅に瀕せしめる情態云々」という創設の請願書の一文にみることができます。

烏山中との統合は、数多くの議論を経て本年度９月に決定されました。

残り６か月。歴史にふさわしい記念行事をとの声もありました。しかし、「学校」として、粛として本校最後の生徒たちを卒業させ、１・２年生を統合烏山中学校へ移籍させることも歴史に幕を閉じる１つの方策ではないかと判断いたしました。寂寥を嘆くよりも子供たちの明日に期待することが先人の意思なのではないかとの思いに至りました。

校庭の満開の桜。那珂川と遥かに臨む那須連峰。この地に立ったものに共通する光景かと思います。この共通の思いをもつ地域・同窓会・保護者、そして関係者の皆様に、本校に勤務した196名の職員を代表して心よりお礼を申し上げ、統合のことばといたします。

境中統合に寄せて

那須烏山市立境中学校同窓会長
平山　昌和

本校は、昭和22年4月の創立以来5,027名の卒業生を送り出しました。そして、今、境中学校で少年期の3年間を過ごした思い出の学び舎が、その役割を終え幕を閉じようとしています。

一時は536名を数えた在校生も少子化時代の一途を辿り、現在は91名に減少しました。今後の社会の趨勢や地域の子どもたちの将来、幅広い教育の選択や機会均等の問題を考えたとき、寂寞と無念の思いは募りますが、統合もまたやむをえぬとの判断にも至ります。

本校の歴史を振り返るとき、その出発には、戦後の混乱と貧窮の中で豊かな明日を目指すには教育が非常に大切であるとの地域の情熱があったと思います。境村青年学校の校舎の転用と幾たびかの校舎増改築や設備の拡充。子どもたちの将来を教育に託して、地域・保護者が一体となって幾多の困難を乗り越えて来ました。さらに、飛躍的な経済成長の中で、昭和40年の体育館新築。50年プール竣工。58年新校舎。61年新体育館落成と施設・設備の拡充を図ってきました。

また、昭和57・58年の研究PTA—「豊かな心のつながりを求めたPTA活動」の実践とその成果を認められての文部大臣表彰。あるいは、平成7・8年の学校環境緑化活動や近年の武道指導やマルチメディアの研究と、教育活動においても大きな痕跡を残してきました。

こうして本校の59年の歴史を振り返るとき、母校を喪失することへの寂寥と愛惜は一層強く胸に迫ります。しかし、校庭から眺めやる那須連峰や紺青の那珂川の光景は永遠のものです。同窓生、5,027名の思い出もまた永遠です。同窓会が創立の周年ごとに残してきた国旗掲揚台や校歌碑、寄贈による立志の塔等は末永く残すことにしました。

最後に校長先生はじめ諸先生方に心より感謝申し上げますとともに、地域と同窓生の方々の活躍と健康を祈り、統合のことばといたします。

思い出

境地区代表自治会長
堀江　　勝

終戦まもなく、六・三制が施行された期に、境中学校として、スタートされて50余年の幕を閉じることになりました。これも、少子化に伴い、時代の流れとは思いますが、さびしい気持ちも致します。私達の時代、昭和20年代後半の入学ですが、体育館もなく、木造校舎で、教材や、物資もとぼしく、ひもじさにも耐えて来た思いでした。

しかしながら、昭和58年に現在の校舎が完成致して、昭和61年には、体育館が新築され、素晴らしい学校となられ、現在の姿になって居りました。

私も昭和57年には、PTA会員となりまして、同時に副会長となりました。

昭和57・58年度の二年間は、PTA研究校に委嘱されました。“豊かな心のつながりを求めたPTA活動”を、テーマに、会員全員で、積極的に研究をしあいながら、発表には、物資をもちより、手づくりの、おにぎり、豚汁を作り、来校者全員に、お昼として、食べていただき、大変よろこばれた思いがあります。それらの成果が認められまして、文部大臣表彰を受賞する事が出来ました。又表彰式には、当時の北条校長先生と代表として、東京プリンスホテルに於いて、直接中島文部大臣より受賞出来た事は忘れることは出来ません。

平成7年には、創立からの奉仕活動が認められまして、緑化コンクールにおいて、準特選の栄誉にも輝きました。学校を中心として、家庭、地域の連携を保ち、今日までこられたことは、非常にうれしく思われます。

又これからの児童、生徒の安全のために、平成16年に境地区自警団パトロール隊を結成し、毎日の安全を祈り活動を致して居ります。本校が閉校になりましても、今後も、防犯活動を続けて参りたいと思います。

【校章】

境中学校
昭和22年9月1日制定
考案者　佐藤　節（初代校長）
図案者　吉田 福一（元烏女高校長）
「平和の鳩」

平和は世界人類の永遠の理想であり、新日本、ひいては境中学校の理想であることを象徴した。
鳩の輪郭は境中学校の中をあらわした。

【校旗】

昭和42年3月14日樹立
考案者　荒井　司（5代校長）
デザイン　佐藤　超（境中職員）

長い間、校旗を樹立することは、境中学校の願いであった。

20周年記念事業に先ず校旗樹立の希望が出され、意義ある第1回卒業生の方々が、校旗の寄与を申し出られ、校旗樹立の願いがかなった。

校旗のデザインは、境中のシンボルである鳩が金色に浮き、バックは校色であるグリーンに染められている。

【立志の塔】

昭和44年２月15日除幕
考案者　増渕　正（６代校長）
デザイン　大島 悦子（境中職員）
寄　付　矢野　登

２年生の立志式を中心に、将来への希望をもち目標に向かって努力するため、校門に立志の塔を立てた。上の球は明るく大きな夢を、中段の角錐は夢に到達するための道を表し、下段は夢を実現するため「努力」の文字が刻まれている。

境中学校の沿革の大要

昭和22年４月１日	新学制(6･3･3制)実施により境村大字上境1404番地に境村中学校を設立し、分室を小木須、大木須各小学校におく。
昭和22年５月５日	開校式を挙行し、創立記念日とする。
昭和22年９月１日	小木須分室を廃止し、本校に合併する。
昭和26年10月９日	校歌を制定する。
昭和29年３月31日	町村合併により鳥山町立境中学校と校名を改称する。
昭和30年11月１日	統計教育研究学校として県教委より指定を受ける。
昭和31年11月23日	創立10周年記念式典を挙行する。
昭和32年３月１日	大木須分室を廃止し、本校に合併する。
昭和32年５月１日	産業教育研究学校として文部省より指定を受ける。
昭和40年４月30日	体育館(539㎡)鉄骨造り新築する。
昭和42年３月14日	校旗を樹立する。
昭和42年５月13日	創立20周年記念式典を挙行する。
昭和43年４月28日	保健研究学校として県教委から指定を受ける。
昭和44年２月15日	「立志の塔」が完成する。
昭和50年８月８日	学校プール(325㎡)の竣工式を挙行する。
昭和52年11月19日	創立30周年記念式典を挙行する。
昭和53年５月27日	日本善行会(生徒会、花立峠、清掃美化奉仕活動)より表彰を受ける。
昭和55年11月６日	貯蓄優良校として知事表彰を受ける。
昭和57年４月30日	昭和57･58年度、県PTA連合会より研究PTA委嘱を受ける。
昭和57年12月13日	生徒自転車置き場が完成する。
昭和58年４月11日	新校舎落成式典･祝賀会を挙行する。
昭和59年５月14日	昭和59･60年度、県教委より同和教育研究学校として指定を受ける。
昭和60年10月19日	こども銀行の活動で知事表彰を受ける。
昭和61年３月31日	新体育館が完成する。
昭和61年10月16日	学校林を設定する。(町有地保管転換)
昭和62年３月20日	部室を新築する。
昭和62年11月13日	PTA活動で文部大臣表彰を受ける。
昭和63年３月１日	創立40周年･PTA活動文部大臣表彰受賞記念式典を挙行する。
平成元年５月19日	平成元･２年度、境地区地域ぐるみ研究学校として県教委より指定を受ける。
平成４年12月10日	コンピュータ室を設置する。
平成７年１月20日	学校安全優良校の表彰を受ける。
平成７年１月25日	県学校環境緑化コンクールで優良校の表彰を受ける。
平成８年２月14日	県学校環境緑化コンクールで最優秀校の表彰を受ける。
平成８年５月19日	全日本学校関係環境緑化コンクールで準特選の表彰を受ける。
平成９年２月10日	県学校環境緑化コンクールPTA協力の部で知事表彰を受ける。
平成９年４月１日	平成９･10･11年度武道指導推進校として文部省より指定を受ける。
平成９年６月15日	学校体育実践と充実で県教委より表彰を受ける。
平成９年10月25日	創立50周年記念式典を挙行する。
平成11年12月８日	平成11～15年度、文部省よりマルチメディア学校間連携推進事業に指定される。
平成13年11月８日	全国学校体育研究優良校の表彰を受ける。
平成18年２月12日	閉校記念式典を挙行する。
平成18年３月31日	閉校。

【歴代PTA会長】

初代会長	昭和23年4月1日～昭和24年3月31日	佐藤静松	(下境)
2代会長	昭和24年4月1日～昭和27年3月31日	大木文寿	(下境)
3代会長	昭和27年4月1日～昭和28年3月31日	五味渕慶治	(小木須)
4代会長	昭和28年4月1日～昭和34年3月31日	鈴木甫	(下境)
5代会長	昭和34年4月1日～昭和36年3月31日	桑久保義海	(上境)
6代会長	昭和36年4月1日～昭和40年3月31日	堀江甲	(大木須)
7代会長	昭和40年4月1日～昭和41年3月31日	池沢孝一	(下境)
8代会長	昭和41年4月1日～昭和45年3月31日	五味渕文男	(小木須)
9代会長	昭和45年4月1日～昭和46年3月31日	塩野目幸夫	(下境)
10代会長	昭和46年4月1日～昭和47年3月31日	菊地正意	(小木須)
11代会長	昭和47年4月1日～昭和49年3月31日	根本貢	(横枕)
12代会長	昭和49年4月1日～昭和50年3月31日	蓮見規光	(下境)
13代会長	昭和50年4月1日～昭和51年3月31日	野上昇平	(大木須)
14代会長	昭和51年4月1日～昭和53年3月31日	佐藤寿	(下境)
15代会長	昭和53年4月1日～昭和54年3月31日	堀江道博	(大木須)
16代会長	昭和54年4月1日～昭和56年3月31日	川上昭寿	(上境)
17代会長	昭和56年4月1日～昭和57年3月31日	堀江淳一	(大木須)
18代会長	昭和57年4月1日～昭和59年3月31日	塩野目人一	(下境)
19代会長	昭和59年4月1日～昭和61年3月31日	平山昌和	(上境)
20代会長	昭和61年4月1日～昭和63年3月31日	堀江勝	(小木須)
21代会長	昭和63年4月1日～平成 3年3月31日	前澤憲一郎	(上境)
22代会長	平成 3年4月1日～平成 4年3月31日	皆川光男	(小木須)
23代会長	平成 4年4月1日～平成 5年3月31日	大谷修一	(上境)
24代会長	平成 5年4月1日～平成 6年3月31日	萩原守	(横枕)
25代会長	平成 6年4月1日～平成 7年3月31日	永山哲夫	(大木須)
26代会長	平成 7年4月1日～平成 8年3月31日	両方恒雄	(下境)
27代会長	平成 8年4月1日～平成 9年3月31日	大橋敢	(上境)
28代会長	平成 9年4月1日～平成10年3月31日	根本和一	(横枕)
29代会長	平成10年4月1日～平成11年3月31日	川堀文玉	(大木須)
30代会長	平成11年4月1日～平成12年3月31日	佐藤新一	(下境)
31代会長	平成12年4月1日～平成13年3月31日	矢口正則	(上境)
32代会長	平成13年4月1日～平成14年3月31日	平塚英教	(小木須)
33代会長	平成14年4月1日～平成15年3月31日	堀江恒夫	(大木須)
34代会長	平成15年4月1日～平成16年3月31日	阿久津光一	(下境)
35代会長	平成16年4月1日～平成17年3月31日	清水康雄	(上境)
36代会長	平成17年4月1日～平成18年3月31日	矢野博史	(小木須)

卒業年度別幹事

第１回	昭和22年度	東原弘悦
第２回	昭和23年度	浅野康文
第３回	昭和24年度	坂田正行
第４回	昭和25年度	大森正一
第５回	昭和26年度	阿久津修一
第６回	昭和27年度	會澤信夫
第７回	昭和28年度	星　恵明
第８回	昭和29年度	小室賢憲
第９回	昭和30年度	小森和昌
第10回	昭和31年度	中村洋一郎
第11回	昭和32年度	大喜　操
第12回	昭和33年度	山村敏雄
第13回	昭和34年度	森島ケイ子
第14回	昭和35年度	石川武一
第15回	昭和36年度	川上幸子
第16回	昭和37年度	阿久津行雄
第17回	昭和38年度	大森　勝
第18回	昭和39年度	生魚正行
第19回	昭和40年度	五味渕　誠
第20回	昭和41年度	両方恒雄
第21回	昭和42年度	堀江久雄
第22回	昭和43年度	澤村俊夫
第23回	昭和44年度	石川博郷
第24回	昭和45年度	小原澤英雄
第25回	昭和46年度	長山　登
第26回	昭和47年度	久郷利夫
第27回	昭和48年度	石川康広
第28回	昭和49年度	阿久津光一
第29回	昭和50年度	皆川　聡
第30回	昭和51年度	矢野昭光
第31回	昭和52年度	大森則行
第32回	昭和53年度	菊地章記
第33回	昭和54年度	小室　太
第34回	昭和55年度	川俣寿行
第35回	昭和56年度	川俣謙一
第36回	昭和57年度	大谷義夫
第37回	昭和58年度	大谷光幸
第38回	昭和59年度	塩野目敬章
第39回	昭和60年度	永山　誠
第40回	昭和61年度	成田眞司
第41回	昭和62年度	和久隆志
第42回	昭和63年度	池沢和彦
第43回	平成元年度	石川信明
第44回	平成２年度	桑久保光明
第45回	平成３年度	澤村和彦
第46回	平成４年度	菊地雅俊
第47回	平成５年度	両方博幸
第48回	平成６年度	石川哲也
第49回	平成７年度	根本英樹
第50回	平成８年度	根本新太
第51回	平成９年度	小森英明
第52回	平成10年度	平塚　学
第53回	平成11年度	荒井　文
第54回	平成12年度	大貫仁美
第55回	平成13年度	粕谷朋之
第56回	平成14年度	両方宏樹
第57回	平成15年度	大谷達朗
第58回	平成16年度	大山貴之
第59回	平成17年度	小森友里香

【歴代同窓会長】

初代会長　平成６年まで　石川勇一
２代会長　平成７年から　平山昌和

【同窓会役員・幹事】（　）卒業回数

役員

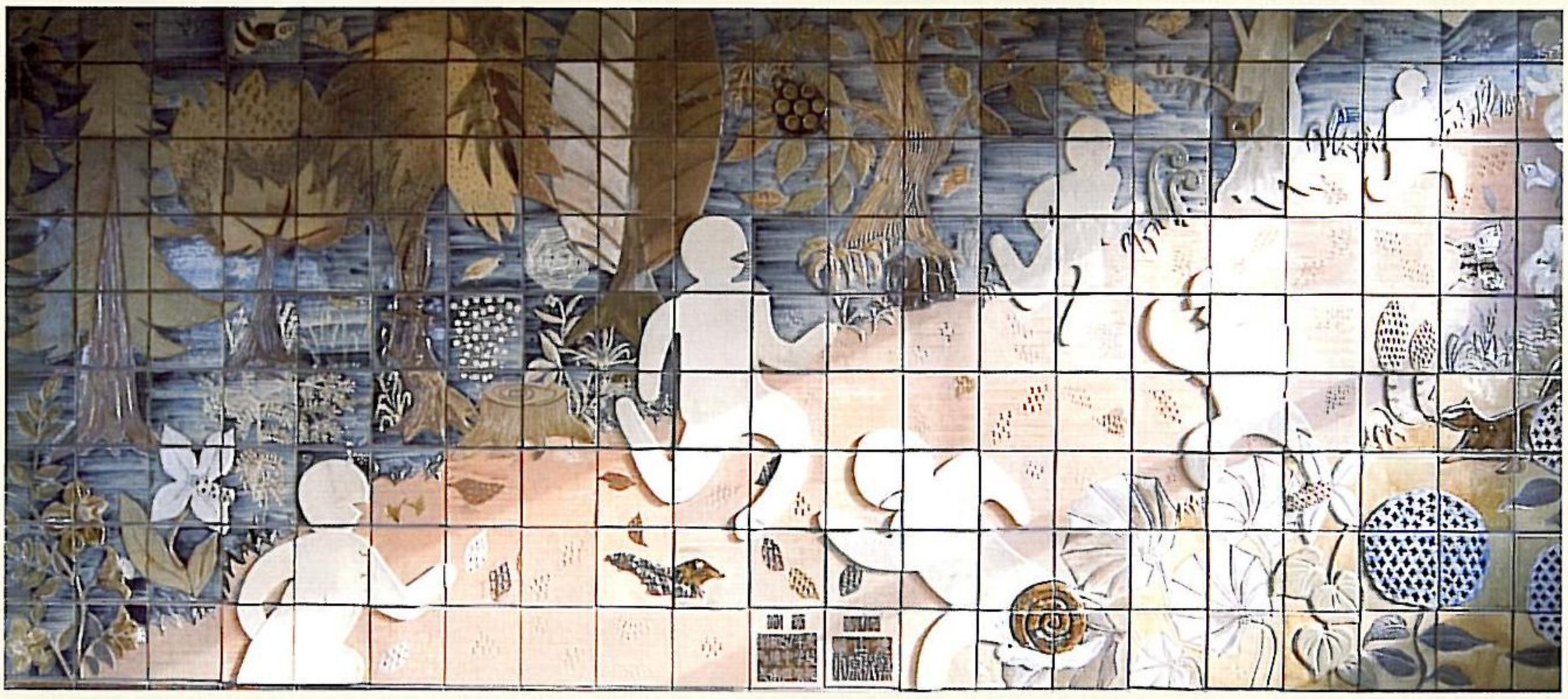
会長　平山昌和(2)
副会長　堀江　静(3)　高橋安隆(5)
監事　菱沼一朗(3)　菱沼トキ子(4)
小原沢イチノ(4)
書記　荻野目　敬(4)
会計　大谷恵一(6)

常任幹事

上境　大谷　司(4)　平山勝美(8)
下境　小林　均(1)　塩野目富夫(17)
小原沢　小原沢　肇(2)　小原澤　貢(6)
大木須　永山英之助(5)　小森　茂(11)
小木須　小澤秀利(3)　菊地佐武郎(5)
横枕　澤村　巌(4)　澤村三男(8)
大沢　大森　正(7)　平山孝夫(18)

幹事

上境　高野福江(2)　山村公一(16)
下境　大窪金夫(6)　松本　武(7)
小原沢　大貫　守(7)　大貫光広(12)
大木須　矢野喜一(8)　堀江孝彰(12)
小木須　堀江　勝(8)　五味渕裕一(20)
横枕　山村一郎(15)　萩原光男(17)
大沢　五味渕忠也(2)　大橋　近(17)



【歴代校長】

初代校長 佐藤　節
昭和22年4月1日～
昭和26年7月12日

2代校長 上野 俊男
昭和26年8月21日～
昭和28年3月31日

3代校長 大山 英一
昭和28年4月1日～
昭和34年3月31日

4代校長 萩原　正
昭和34年4月1日～
昭和39年3月31日

5代校長 荒井　司
昭和39年4月1日～
昭和42年3月31日

6代校長 増渕　正
昭和42年4月1日～
昭和46年3月31日

7代校長 豊田 与一郎
昭和46年4月1日～
昭和49年3月31日

8代校長 山口 正尚
昭和49年4月1日～
昭和52年3月31日

9代校長 大木 好文
昭和52年4月1日～
昭和55年3月31日

10代校長 生井 幸夫
昭和55年4月1日～
昭和57年3月31日

11代校長 吉村　正
昭和57年4月1日～
昭和58年3月31日

12代校長 吉澤 幸次郎
昭和58年4月1日～
昭和59年3月31日

13代校長 北條 光二
昭和59年4月1日～
平成元年3月31日

14代校長 草分　一
平成元年4月1日～
平成 4年3月31日

15代校長 高田　博
平成4年4月1日～
平成7年3月31日

16代校長 高橋 仁市
平成7年4月1日～
平成11年3月31日

17代校長 岡　誠一
平成11年4月1日～
平成13年3月31日

18代校長 堀江 真樹
平成13年4月1日～
平成16年3月31日

19代校長 郡司 恵一
平成16年4月1日～
平成18年3月31日

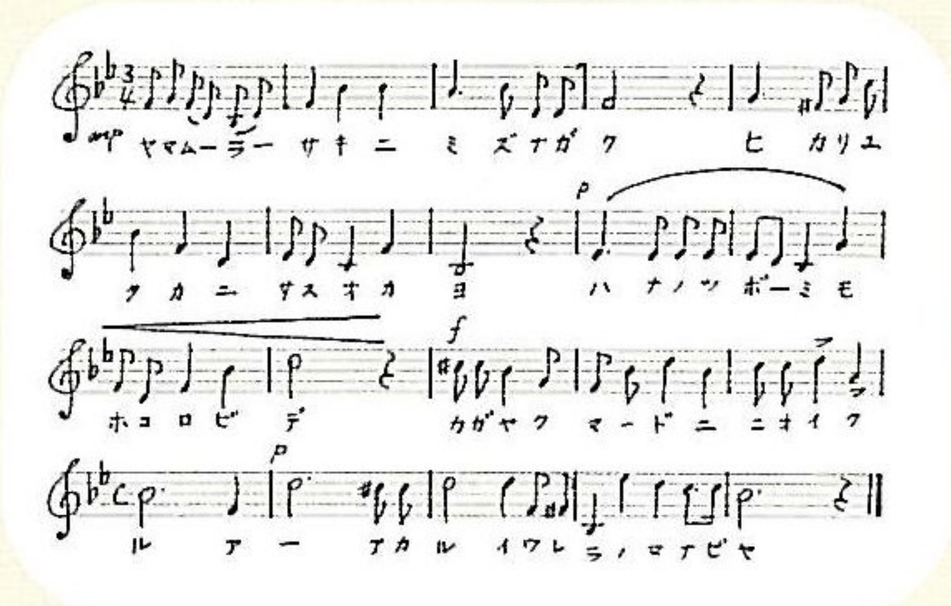
境中学校逍遥歌

佐藤　節　作詞
堀江あけみ　作曲

一、山紫に　水長く
光ゆたかにさす丘よ
花のつぼみもほころびて
かがやく窓に匂いくる
あゝ明るいわれらの学園

二、平和もしるく白鳩の
永久にはばたく校章よ
常に若さが友情が
ほゝえむ胸に湧いてくる
あゝ楽しいわれらの学園

三、花も開いた窓あけて
仰げ希望の大空を
秀でて清い山脈が
ふるえて見える感激に
あゝ作ろうよあしたの学園



境中学校応援歌

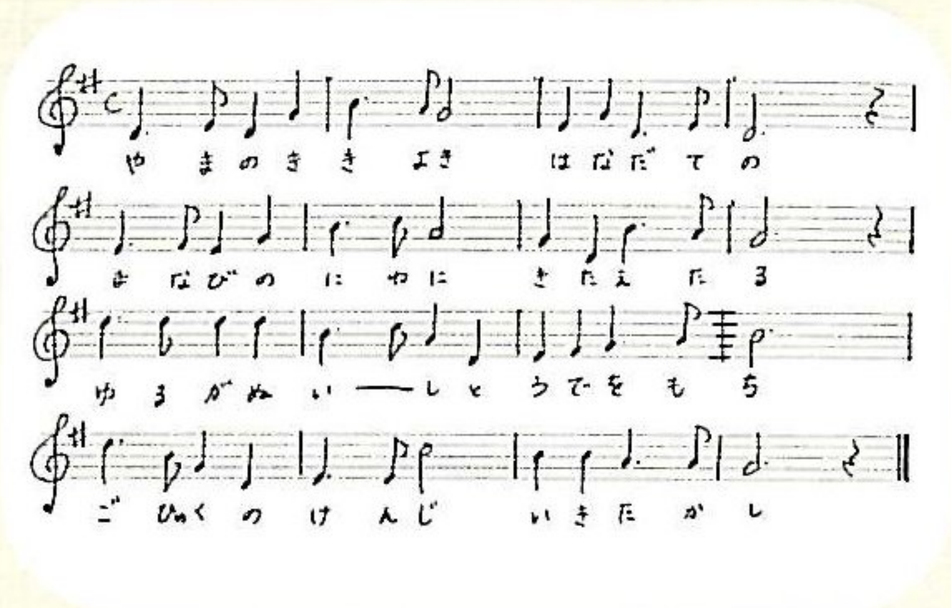
手塚　益雄　作詞
大貫千代子　作曲
森島ケイ子　補作

一、山の気清き　花立の
学びの庭に　きたえたる
ゆるがぬ意志と　腕をもち
境の健児　意気高し

二、希望に燃ゆる　若人が
学びと業に　はげみたる
力ためすは　この時ぞ
進めわが友　いざともに

三、白雲なびく　那須岳の
雄々しき姿　仲ぎつゝ
必勝の道　ひとすじに
わが精鋭は　進みゆく

四、あゝ敢闘の　甲斐ありて
勝利は我に　輝けり
熱血胸に　あふれきて
われらが意気は　いや高し



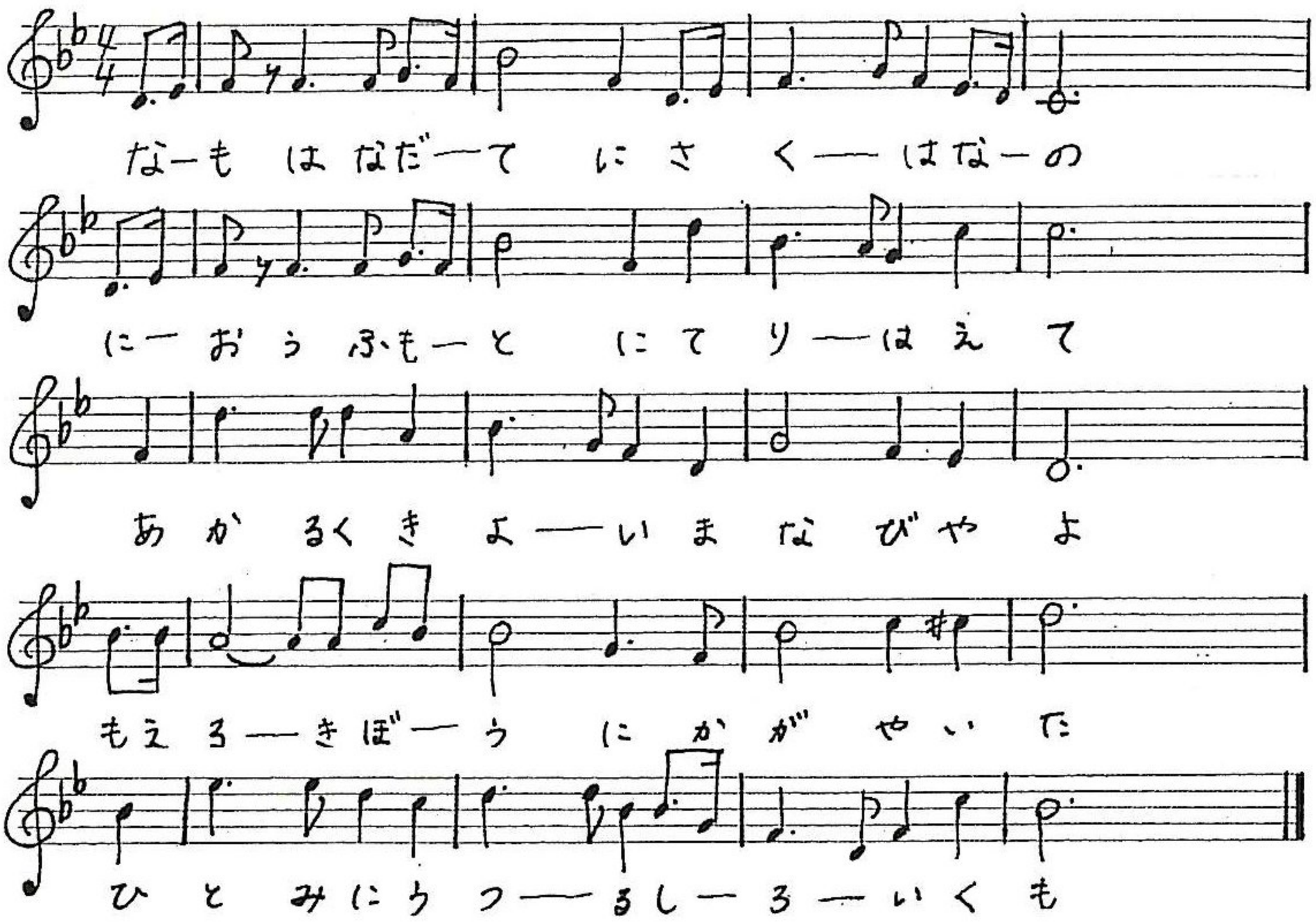
境中学校校歌

佐藤　節 作詞
武山信治 作曲

一、名も花立に　咲く花の
匂う麓に　照り映えて
明るく清い　学びやよ
もえる希望に　輝いた
瞳にうつる　白い雲

二、大地に長く　那珂の水
流す光りの　ゆたかさよ
平和の影は　白い鳩
永久に彫んだ　校章に
おどる血汐の　ああ若き

三、仰げきらめく　星かげを
見よ　りょうらんの　花の色
ただひとすじに　いそしめば
ああ　天地に　限りなく
光あふれて　幸はある



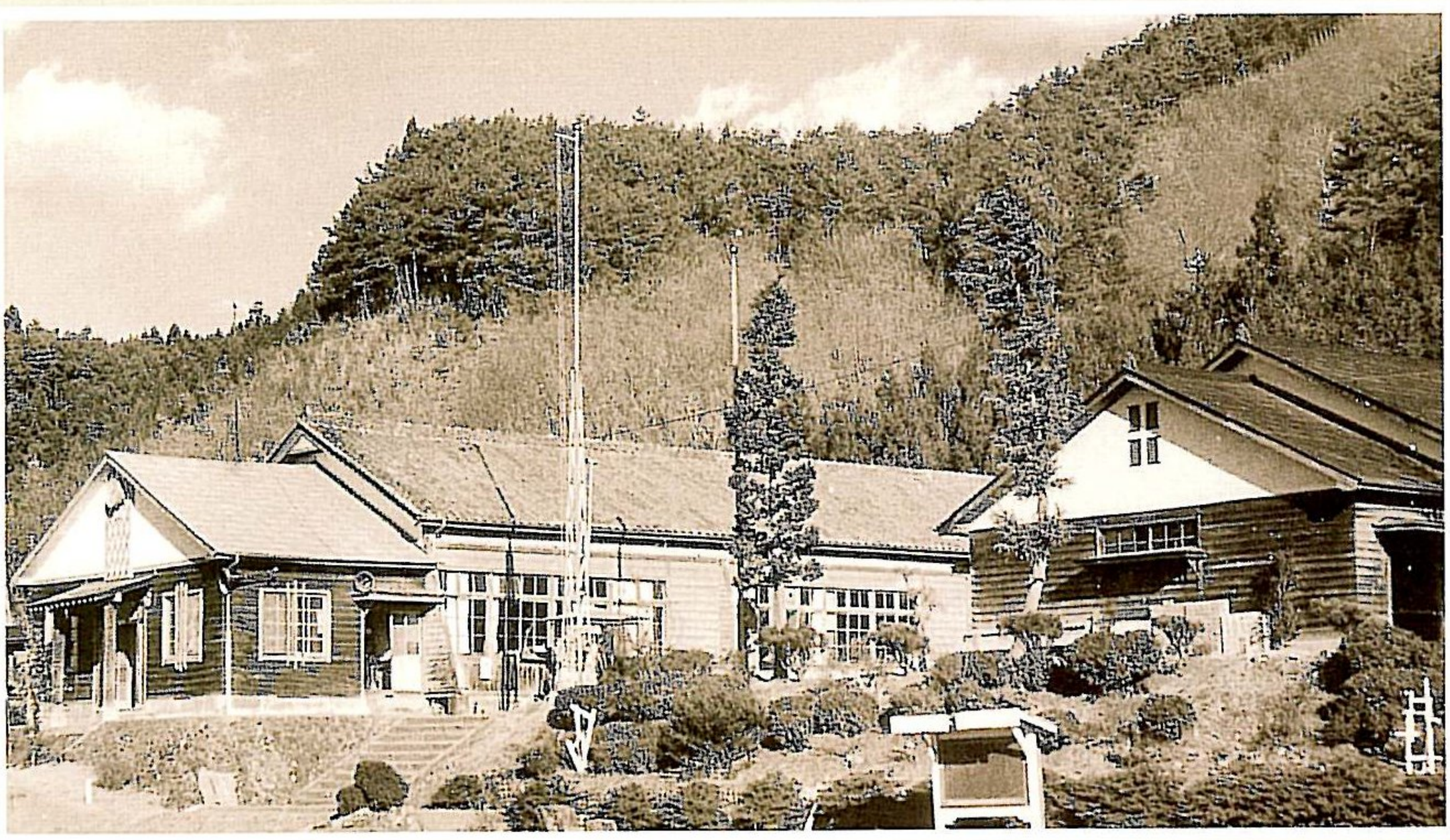
境中学校生徒数の推移

（　）学級数

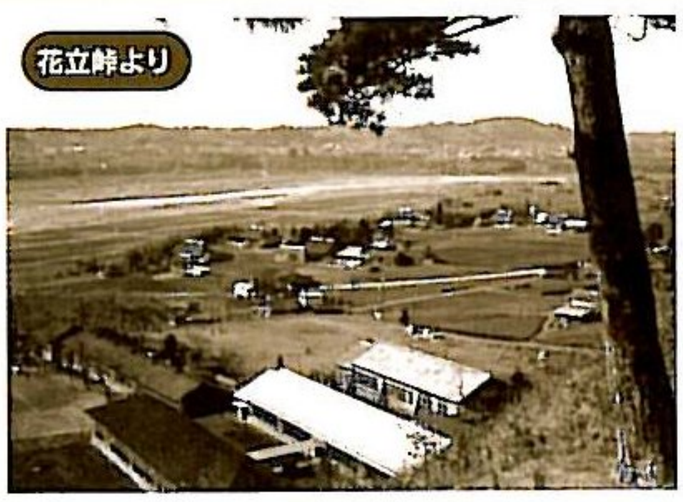
年　度	1年	2年	3年	計
昭和22年	148(4)	123(4)	47(1)	318(9)
昭和23年	176(4)	144(3)	99(2)	419(9)
昭和24年	163(4)	171(4)	141(3)	475(11)
昭和25年	175(4)	161(4)	161(3)	499(11)
昭和26年	135(4)	173(4)	156(3)	464(11)
昭和27年	163(4)	131(4)	168(4)	462(12)
昭和28年	166(4)	167(4)	126(3)	459(11)
昭和29年	150(4)	168(4)	159(3)	477(11)
昭和30年	147(4)	148(4)	161(3)	456(11)
昭和31年	169(4)	145(4)	142(3)	456(11)
昭和31年まで大木須分校各学年1学級を含む				
昭和32年	130(3)	170(3)	145(3)	445(9)
昭和33年	87(2)	130(3)	164(4)	381(9)
昭和34年	143(3)	87(2)	129(3)	359(8)
昭和35年	183(4)	139(3)	85(2)	407(9)
昭和36年	186(4)	179(4)	135(3)	500(11)
昭和37年	173(4)	186(4)	177(4)	536(12)
昭和38年	147(3)	169(4)	185(4)	501(11)
昭和39年	146(3)	149(3)	167(4)	462(10)
昭和40年	127(3)	145(4)	147(4)	419(10)
昭和41年	127(3)	126(3)	144(4)	397(10)
昭和42年	99(3)	127(3)	124(3)	350(9)
昭和42年度から大沢小卒業生は烏山中に入学				
昭和43年	126(3)	97(3)	127(3)	350(9)
昭和44年	81(2)	125(3)	96(3)	302(8)
昭和45年	98(3)	79(2)	127(3)	302(8)
昭和46年	89(2)	97(3)	81(2)	267(7)
昭和47年	79(2)	89(2)	97(3)	263(7)
昭和48年	75(2)	78(2)	89(2)	242(6)
昭和49年	56(2)	75(2)	78(2)	209(6)
昭和50年	48(2)	57(2)	74(2)	179(6)

年　度	1年	2年	3年	計
昭和51年	56(2)	48(2)	57(2)	161(6)
昭和52年	43(1)	57(2)	48(2)	148(5)
昭和53年	51(2)	43(1)	57(2)	151(5)
昭和54年	42(1)	51(2)	44(1)	137(5)
昭和55年	52(2)	42(1)	51(2)	145(5)
昭和56年	40(1)	52(2)	42(1)	134(4)
昭和57年	43(1)	41(1)	52(2)	136(4)
昭和58年	58(2)	43(1)	42(1)	143(4)
昭和59年	42(1)	57(2)	44(1)	143(4)
昭和60年	40(1)	42(1)	56(2)	138(4)
昭和61年	52(2)	40(1)	56(2)	134(4)
昭和62年	49(2)	52(2)	39(1)	140(5)
昭和63年	52(2)	49(2)	53(2)	154(6)
平成元年	35(1)	52(2)	49(2)	136(5)
平成2年	49(2)	36(1)	52(2)	137(5)
平成3年	42(2)	49(2)	36(1)	127(5)
平成4年	38(1)	42(2)	49(2)	129(5)
平成5年	42(2)	37(1)	42(2)	121(5)
平成6年	33(1)	42(2)	37(1)	112(4)
平成7年	40(1)	33(1)	42(2)	115(4)
平成8年	53(2)	40(1)	33(1)	126(4)
平成9年	49(2)	53(2)	40(1)	142(5)
平成10年	43(2)	49(2)	56(2)	148(6)
平成11年	34(1)	43(2)	49(2)	126(5)
平成12年	43(2)	35(1)	42(2)	120(5)
平成13年	36(1)	43(2)	35(1)	114(4)
平成14年	42(2)	37(1)	43(2)	122(5)
平成15年	33(1)	42(2)	37(1)	112(4)
平成16年	30(1)	32(1)	40(2)	102(4)
3年町単40人学級解消事業により2学級編成				
平成17年	29(1)	30(1)	32(1)	91(3)

【思い出】昭和20年～昭和30年代



校舎全景

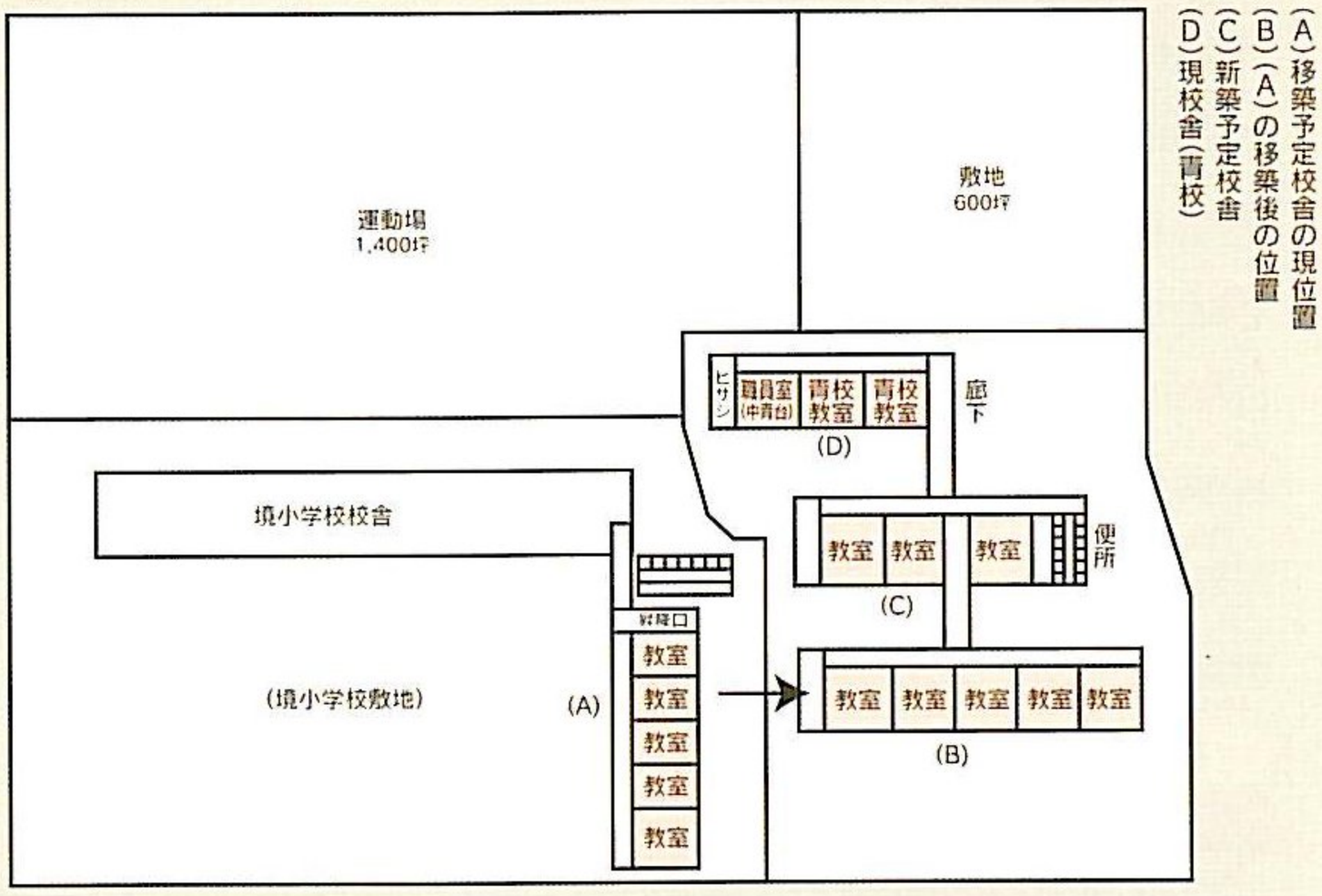


花立峠より

入学記念

境中学校　校地　校舎平面図

昭和22年12月11日現在（校舎設置計画）6.3.3制準備協議委員会の計画



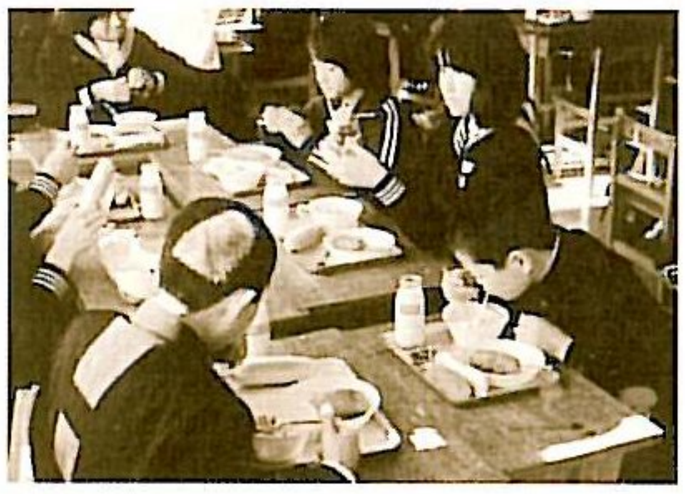
卒業記念

体育祭

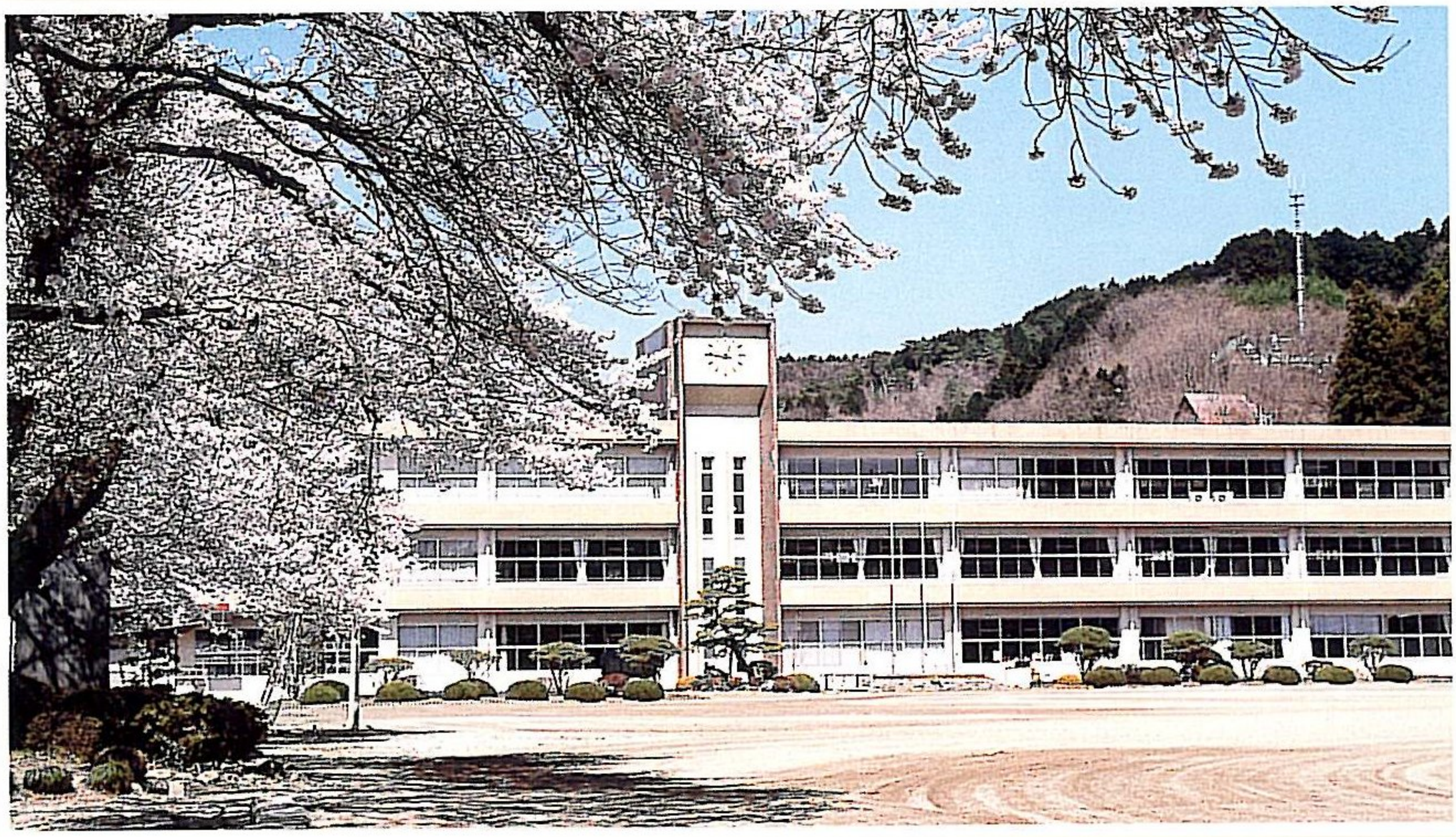
【思い出】昭和40年～昭和50年代

体育館完成（旧：昭和40年、新：昭和61年）

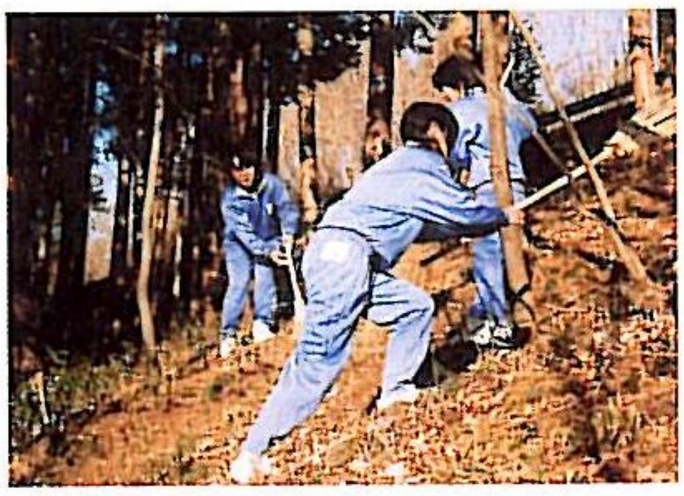
なつかしい日々



【思い出】昭和60年～平成



生徒の活動



平成17年12月7日撮影

境中学校閉校記念誌

平成18年3月

発　行　那須烏山市立境中学校
統合準備委員会・同窓会
印　刷　㈲　吉　成　印　刷

境

SAKAI JUNIOR HIGH SCHOOL